

第31回イオン環境活動助成先 決定

環境活動に取り組む97団体に総額9,414万円を助成

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は、第31回環境活動助成公募の結果、97団体に総額9,414万円の助成を行うことを決定しました。

当財団は、設立以来、自然環境を守り、ひとつしかない地球を次代へ引き継ぐため、国内外の地域に根差した環境活動に積極的に取り組まれている非営利団体に、活動費の一部を支援してまいりました。毎年、基本テーマを設定して公募を実施し、専門家を含む選考委員会にて審査を行います。第31回は「里山コモンズの再生」のテーマで募集し、163団体から応募頂きました。今回を含め、これまでの助成団体数はのべ3,250団体、助成総額は29億6,591万円となります。

当財団は、今後も地球市民として、環境活動を推進・支援し、助成事業を通じ、地域の皆さまとともに様々な環境活動に積極的に取り組んでまいります。

【第31回イオン環境活動助成 概要】

基本テーマ： 里山コモンズの再生

- 活動分野：
- ① 里山(里地・里川・里湖・里海を含む)の保全・維持・管理
 - ② 植樹を含む里山の修復
 - ③ 野生動植物・絶滅危惧生物の保護
 - ④ 自然資源の利活用
 - ⑤ 自然環境教育

助成金額： 9,414万円

助成期間： 2022年4月1日～2023年3月31日

助成団体： 97団体

活動分野	団体名(活動地域)
① 里山(里地・里川・里湖・里海を含む)の保全・維持・管理	ボランティアサザンクロスジャパン協会(マダガスカル) 一般財団法人ハヤチネンダ(岩手県) 特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト(宮城県) 一般財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団(宮城県) 特定非営利活動法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議(福島県) 暮らしの実験室やさ農場(茨城県) 特定非営利活動法人里山環境さなざわ(群馬県) 森林塾青水(群馬県) 特定非営利活動法人つるがしま里山サポートクラブ(埼玉県) 特定非営利活動法人 こびすくらぶ(千葉県) あびこ谷津学校友の会(千葉県) NPO 法人 草炭緑化協会(千葉県) 特定非営利活動法人しろい環境塾(千葉県)

	<p> 特定非営利活動法人ちば環境情報センター(千葉県) NPO法人農に学ぶ環境教育ネットワーク(東京都) 特定非営利活動法人山崎・谷戸の会(神奈川県) 横浜自然観察の森友の会(神奈川県) NPO 法人海の森・山の森事務局(神奈川県) 水沢森人の会(神奈川県) 能登の森里海研究会(石川県) 特定非営利活動法人フィールドミュージアム文化研究所(福井県) 特定非営利活動法人ぎふし森守クラブ(岐阜県) NPO 愛宕山ランド(岐阜県) 認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン(静岡県) 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島(静岡県) 名東自然倶楽部(愛知県) 認定特定非営利活動法人 森林の風(三重県) 牟礼山森林クラブ(滋賀県) 巨木と水源の郷をまもる会(滋賀県) NPO 法人愛のまちエコ倶楽部 里守隊(滋賀県) せぎなお会(滋賀県) かせやまの森創造社(京都府) 特定非営利活動法人泉南の里山を大切に作る会(大阪府) 特定非営利活動法人 森林ボランティア 竹取物語の会(大阪府) かしわら森の会(大阪府) 行常しあわせの森づくり協議会(兵庫県) NPO法人棚田LOVER's(兵庫県) 特定非営利活動法人 うだ夢創の里(奈良県) 奈良・人と自然の会(奈良県) 一般社団法人 はたらく馬牧場(奈良県) 特定非営利活動法人アーキペラゴ(香川県) 垣生山よもだ会(愛媛県) 和白干潟を守る会(福岡県) 男ノ子の里 棚田保存会(福岡県) NPO 法人田縁プロジェクト(福岡県) 一般社団法人ド・ロさまの家(長崎県) </p>
<p>② 植樹を含む里山の修復</p>	<p> 特定非営利活動法人 緑化ネットワーク(中国) 一般社団法人 地球緑化クラブ(中国) 特定非営利活動法人 中央アジア森林草地保全研究所(タジキスタン) 特定非営利活動法人イカオ・アコ(フィリピン) コーディリエラ・グリーン・ネットワーク 日本事務局(フィリピン) 一般社団法人マニスファンクラブ(インドネシア) 特定非営利活動法人 VERSTA(ブラジル) 特定非営利活動法人白神山地を守る会(青森県) くじ☆ラボ(岩手県) 特定非営利活動法人白神ネイチャー協会(秋田県) NPO 法人いわきの森に親しむ会(福島県) 特定非営利活動法人 ふくしま再生の会(福島県) </p>

	<p>森びとプロジェクト(福島県、栃木県)</p> <p>秩父育樹会(埼玉県)</p> <p>特定非営利活動法人国際ふるさとの森づくり協会(東京都)</p> <p>特定非営利活動法人戸隠森林植物園ボランティアの会(長野県)</p> <p>特定非営利活動法人静岡山の文化交流センター(静岡県)</p> <p>NPO 法人伊豆未来塾(静岡県)</p> <p>特定非営利活動法人 加茂女(京都府)</p> <p>特定非営利活動法人京おとくに・街おこしネットワーク(京都府)</p> <p>吉田山の里山を再生する会(京都府)</p> <p>一般社団法人 J.M foundation 土佐清水(高知県)</p> <p>妙音山を守る会(大分県)</p> <p>特定非営利活動法人霧島ふるさと命の森をつくる会(鹿児島県)</p>
③ 野生動植物・絶滅 危惧生物の保護	<p>特定非営利活動法人サラマンドフの会(ケニア)</p> <p>大雪山マルハナバチ市民ネットワーク(北海道)</p> <p>認定特定非営利活動法人水のフォルム(埼玉県)</p> <p>坂月川愛好会(千葉県)</p> <p>市原米沢の森を考える会(千葉県)</p> <p>特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー(東京都)</p> <p>特定非営利活動法人サンクチュアリエヌピーオー(静岡県)</p> <p>愛知守山自然の会(愛知県、三重県、岐阜県)</p> <p>特定非営利活動法人亀岡人と自然のネットワーク(京都府)</p> <p>里山の山野草を守る会(奈良県)</p> <p>公益社団法人生態系トラスト協会(高知県)</p> <p>NPO 法人ふくおか湿地保全研究会(福岡県・大分県)</p>
④ 自然資源の利活用	<p>NPO 法人八郷・かや屋根みんなの広場(茨城県)</p> <p>特定非営利活動法人 朝霧森林倶楽部(高知県)</p>
⑤ 自然環境教育	<p>NPO 法人 モンゴル環境情報センター(モンゴル)</p> <p>特定非営利活動法人 ラブ グリーン ジャパン(ネパール)</p> <p>特定非営利活動法人ハロハロ(フィリピン)</p> <p>群馬ナチュラリスト自然保護協議会(群馬県)</p> <p>特定非営利活動法人埼玉ハンノウ大学(埼玉県)</p> <p>日の出ネイチャークラブ(東京都)</p> <p>「あいちの海」グリーンマップ(愛知県)</p> <p>山内エコクラブ(滋賀県)</p> <p>山中比叡平里山倶楽部(滋賀県)</p> <p>ひらかたプレーパーク実行委員会(大阪府)</p> <p>一般社団法人宝塚にしたに里山ラボ(兵庫県)</p> <p>NPO 法人 Peace & Nature(兵庫県)</p> <p>エコ村伝承館(熊本県)</p>

以上

ご参考

■公益財団法人イオン環境財団について

イオン環境財団は、1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也(イオン株式会社名誉会長相談役)により設立されました。

日本で初めて、地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として設立され、2010年に公益財団法人の認可を受けています。

財団設立以来、ひとつしかない地球を次世代へ引き継ぐため、国内外の多様なステークホルダーの皆さまと連携し、様々な環境活動を継続しています。代表的な事業が「植樹活動」で、これまで世界各地で地域ボランティアの皆さまとともに、伐採跡地や自然災害などで荒廃した森に植樹し、みどりの再生を実施してきました。また、環境活動に積極的に取り組んでいる非営利団体への助成や、環境人材の育成を目指した環境教育なども継続実施しています。

今後は、持続可能な地域の実現を目的に、各事業をさらに進化させ、地域の皆さまと協働して、森づくりに加え、地域づくり、人づくりにも取り組み、新たな「イオンの里山」の構築を目指します。

＜公益財団法人イオン環境財団ホームページ: <http://www.aeon.info/ef/> >

■イオンの森づくり

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまで、世界11カ国で植樹を行い、イオンの累計植樹本数は1,238万本となっております(2022年2月現在)。

また、大人数での植樹が難しいという状況が続く中でも、「苗木の里親プロジェクト」と「植樹30万本プロジェクト」を実施し、コロナ下でも、地域ボランティアの皆さまとともに地域緑化に継続取り組んでおります。



苗木の里親プロジェクト(神田外語大学で育てて頂いた苗木)



植樹30万本プロジェクト(地域の皆さまへの苗木配布)

■環境教育

「アジア学生交流環境フォーラム」

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的としてアジア各国の大学生が集い各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム」を実施しています。

これまでにアジア10カ国の大学、王立ブノンペン大学(カンボジア)・清華大学(中国)・インドネシア大学(インドネシア)・早稲田大学(日本)・高麗大学校(韓国)・マラヤ大学(マレーシア)・ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)・チェラロンコン大学(タイ)・ヤンゴン経済大学(ミャンマー)・フィリピン大学(フィリピン)から679名の大学生が参加しました。

2020年は、新型コロナウイルス世界感染症拡大のため延期となりましたが、2021年は「循環型社会の構築」をテーマにオンラインにて実施しました。第10回の今年も、8月2日(火)から4日(木)までオンライン実施の予定です。



第9回 オンライン開催

■ パートナシップ

「一般財団法人リモート・センシング技術センターと連携」

イオン環境財団は、2019年に一般財団法人リモート・センシング技術センターと連携協定を締結し、持続可能な地域づくりの実現に向けリモート・センシング技術を活用した様々な取り組みを実施しています。そのひとつは環境教育です。これまでリモート・センシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化など様々な環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育を実施してまいりました。

また最近では、植樹後の森の状態を把握するため「イオンの森」の炭素蓄積量の調査を、2020年にスタートしました。

これまでは、宮崎県綾町と長崎県南島原市の「イオンの森」にてそれぞれ現地の小中学生たちと一緒に実施しました。

生徒が、タブレットを携えて、森に入り、ドローン観測画像を確認しながら調査対象の樹木を探し、樹種樹高、幹の周囲長を測定してタブレットのアプリに記録しました。

調査後、タブレットに記録された測定結果とドローン観測画像から取得した情報を合わせ、森全体の炭素蓄積量を算定しました。

本活動を通じて、「測る」ための仕組みと、その情報化、そして森づくりの大切さについて学習しました。



炭素蓄積量調査(綾町)



炭素蓄積量調査(南島原)

*リモート・センシングとは、人工衛星、ドローンなどに搭載した観測機器(センサ)を使い、離れた位置から地球表面等を観測する技術です。植生、土壌や大気の水分量、地表や海面の温度、地表面の変位など地球環境を把握するための様々な情報を得ることができます。

「日本ユネスコエコパークネットワークとの連携」

2017年8月に、日本ユネスコエコパークネットワークと当財団は「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク(生物圏保存地域)における3つの機能(保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援)に関し、国内初となる連携協定を締結しました。

「生態系の保護保全のみならず、自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に賛同し、日本国内の管理運営機関である日本ユネスコエコパークネットワークと連携のもと、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでいます。



第1回白山ユネスコエコパークフェア
(イオン御経塚店)